

# 防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会  
会報 第45号(2010 11 30)  
事務局川西地区自主防災会

## 『台湾淡水へ古民家移築物語』

まち・コミュニケーション顧問 田中保三  
(神戸市長田区御蔵通在住)

1995年1月17日午前5時46分、遠く近くに響く音と共に一気にドーンときた上下動に真向法中の体は30cmも浮き上がり落とされた。瞬間真っ暗闇に、「仏壇のローソクだ！」移動しようとした時、今度は『ゴーツツ！ダンッ！ダンッ！ダンッ！』と強烈な横揺れが木造二階建ての梁と柱の軋む音を伴って襲ってきた。「二階が落ちてくる。部屋の真ん中にいたら押し潰されて死ぬ、早く隅っこへ！」と思えど、両手両膝で畳を抑えて踏ん張るのがやっとならぬ、四点支持を一点でも失うともんどりうって転げそうで、死の恐怖に戦っていた。時間と場所が違えば間違いなく死に至っていたであろう。紙一重の生死を生れて初めて体験した。その後多くのボランティアが神戸で我を忘れて献身的に助けてくれた。私の人生観、価値観は変わって当然だろう。私自身も「よいことを行う機会と能力がありながら実行しなかった場合、それは私にとって悪である。悪が常に明白な行為を伴うとは限らない。善の不在も悪につながる」(『ゼロ・エミッション』より)を肝に銘じ行動規範にする。

1999年9月21日午前1時47分、台湾中部をM7.6の地震が襲った。テレビはビルの倒壊や道路や校庭の隆起を映し出している。同じ死の恐怖を体験したのだ。何か共有できるものがある。第五回慰霊祭を終えた翌日ピースボートの仲間と渡台。南投縣国姓郷福龜村で出会った邱明民氏が全てと行ってよい。小、中学校での交流、そして埔里での倒壊家屋から家財道具の運び出しはその触れ合いの中にかつて日本にもあった純朴さに浸り、家具や箆笥の中身に心底親しみを覚えた。台湾をぐっと身近な善隣友好の国としてお付き合いし、理解を深めたいと思った。

2000年1月下旬に帰国して当地区のご婦人方に台湾被災地の報告会を開いてほしいとの要望で1月末にプレハブの仮設で見聞記を話した。即刻「我々も行きたい」と言われる。何分にも海外は初めての方も多く、パスポートの取得から始まり総勢18名で3月2日から3泊4日の被災地めぐりを決行。この行事は翌2001年2月19日～22日、2003年2月28日～3月4日の第三回と続く。いずれも20～30人の編成である。第三回目は昨夏(2009年



川西地区での講演中の筆者

)台風9号により局地的集中豪雨で大きな被害を受けた県西部の佐用町生活改善グループの方々も加わり大所帯になった。いずれも窓口は邱明民氏であり、友情が深まっていくことになる。

一方当地御蔵では2002年夏に集会所として150km離れた日本海沿岸の香住町安木村で明治10年代築の古民家を学生ボランティアを中心に大工棟梁指揮のもと二週間かけて解体し、03年夏より御蔵の地で建築を始める。これまた大工棟梁、左官親方の指揮のもと学生と地元のボランティアが大勢参加して03年暮れに完成する。移築中に「私の所も見てほしい」と福井県大飯町岡田村のものがでてきた。図面作成上、実寸調査に行き屋根裏の棟札を見ると大正4年4月6日木挽棟梁仲瀬安右衛門、大工棟梁水上寛治、赤松幹一とあるではないか。これは作家水上勉さんのお父さんだと確信に至る。雨漏りもしているので早速夏休み4週間合宿解体を計画する。今度も棟梁指揮のもと学生ボランティア中心で、台湾で日本の古民家に興味を持っている学生にも応援してもらおうと、邱明民さんに連絡を取ると建築系の学生が4人(うち一人は女性)映像監督が1人の計5人が助っ人に来た。日本の学生が常時25~30人無事4週間で解体し終えた。終盤近くに日本側から「台湾の人たちに大変お世話になった、今度は、これを台湾で建て俺たちが手伝いに行こうではないか」と。いつの間にかお互いに汗をかき合い一つの目的に向かって邁進するうちに深い友情が醸成された証拠だろう。



これに応えるべく邱明民と連絡を取り合う。08年夏にボランティアで旧知の間柄だった淡水鎮鎮長になっている蔡葉偉さんと古材の引き渡し式を行う。それから1年、09年6月初旬から8月下旬にかけて約3か月まち・コミ代表宮定章君は日本の大工棟梁含め多いときで5人、左官の親方と弟子の2人を率いて合宿、日本からの入れ代わり

立ち代わりの学生の面倒を見ながら台湾の学生ボランティアや職人さんの間に入って指揮を執った。漆喰壁三面と内装のすべてを台湾側に任せましたところ、年末には見事に出来上がっていました。

解体から土地探しに5年を要しましたが、決して長くはありませんでした。その間05年の暮れにNHKラジオ深夜便「こころの時代」から流れてくる台湾少年工の話、あわてて2日分をテープに録り、繰り返し聞いた8400人の台湾からやってきた12歳~20歳(大半が12,3歳)の少年工が神奈川県高座海軍工廠で米軍の大型爆撃機の迎撃する戦闘機「雷電」を製造するために戦争末期の1943年から1945年まで日本人として勤めていたことを初めて知った。声の主である石川公弘さんにも横浜でお会いし当時の貴重なお話を聞く機会も得た。また、解体後若州一滴文庫に水上

勉さんの長女水上落子さんを訪ね「台湾移築の暁には水上文庫を備えたい」とご助力を要請した。翌年神戸本町風月堂にサロンに窪島誠一郎さんが来られた時に、いきさつを説明し協力をお願いしました。やがて落子さんから文庫が届き手荷物にして台湾に持参、台北で10数人の水上フアンの方々にお披露目しました。また、神戸は作家陳舜臣さんがおられます。

08年の夏、住まいを訪ね古民家移築の経緯を話し、水上文庫同様に陳舜臣文庫を頂けないでしょうかと願えば即座に快諾を得、すでに陳舜臣文庫も備わった。五年の空白は決して空白ではありませんでした。この企画も台湾の諸先輩方に違和感はないと積極的に賛同してもらった。自分にやれることはやる。仲間がいるから出来る。日台の学生応援団もいた。彼らもたがいに汗を流し合って達成感を得た。気づいた人が行動を起こすことこそ大事なことだと思います。

連絡先

m-comi@bj.wakwak.com

活動の様子はブログ

<http://machicomi.blog42.fc2.com/>

## <地域だより>

## 坂出市王越町

～前篇～

坂出市王越町木沢自主防会長 北山 定男

我が町坂出市王越町は風光明媚で坂出 12 校区の内、自然環境に恵まれ歴史は古く、土器文化・縄文・弥生（220 年）古墳時代（391 年）中世期・現代へと移り、江戸時代高松藩では、200 戸足らずの純朴な農山村に 19 町 4 反歩の塩田を築造し、松平家の御定紋『三つ葉葵紋』を頂いており、木沢町の文化としては今も尚、祭礼に『奴』が伝統として引き継がれています。

しかし、少子高齢化の波紋は広がり、避けて通ることは出来ません。

8 月末現在の王越の人口は 1,240 名、高齢者比率は 40.7%と坂出校区の中では一番高く……。6 年前新潟県中越地震後の山越村は、震災前の 2,100 人から大幅に人口が減少し、現在 1,300 人、高齢比率も 27%強から、51%になっており、我が王越と人口は変わらず、王越として、限界集落にならない為にも「誰が」「何を」「いつ」「何処で」「どの様」にして行く、また、後継者が育つ基盤と、今期をもって王越小学校は廃校になりますが、地域から子供が減り続けるという社会秩序を適正に維持していく上で由々しき事態への対策が必要だと考えます。



### <震災の恐怖体験>

平成 5 年 7 月、奥尻島・南西沖地震発生の際、青森県のホテル 9F に宿泊中 10 時過ぎ、テレビは走り、ホテルは揺り戻しが……。思わず布団を『かぶった』思い出、また、8 年の阪神・淡路大震災では、得意先の応援として神戸に向かい、悲惨な光景に啞然とし自然の脅威に驚き、当時の光景を今も脳裡から取り去る事が出来ません。

そして、16 年度に発生した 16 号台風と 23 号台風では（王越地区は、完全な陸の孤島に）、満潮の 11 時より 2 時間も早く高潮が襲いかかり、油断していた事で、王越全体が大きな被害に遭遇することとなりました。

床上浸水は我が家含め 35 戸、床下浸水も 36 戸の被害が有り、手の施しようも無く、腰上まで水につかりながら 1 人暮らしの高齢者宅に避難を促しました。ただ、家から出ないと申される方もおり、これらの教訓を活かし新たな防災の仕組み作りの検討を考えることとなりました。

### <自主防災組織結成について（17 年 7 月～）>

王越連合自治会として防災組織につき必要不可欠であると考えておりましたが、会合を重ねるも分裂し実現せず、乃生地区・木沢地区に自主防災組織を結成することとなりました。私は 15 年から横浜や青森県八戸市の防災について、『マップ』作りや避

難等についての資料を閲覧・記録し、興味を持ち、必要性を強く感じておりました。

自主防災組織結成には、必然的に人・物・金が発生いたします。資金面について、市の補助金は助かったが資金の問題は残り、木沢地区の全戸数に対し、防災組織の必要性を説明、理解を得られて、各戸当たり 1,500 円を負担頂き、防災に欠かせない『ヘルメット』を各戸に配布することができました。負担金の残金を資金に回し、また他の、あらゆる補助金制度を活用させて頂きなんとか目途が立つ資金の調達が出来ようになりました。

防災進行の方針『ガイドライン』を、先ず木沢自治会に報告し、様々な問題も残りましたが、基本『マニュアル』を会合にて逐次報告するという条件で市と相談し進める旨を伝え了承受け、防災『マップ』を作成。印刷に当たり各自治会に要請した事は、空き家・一人暮らしの戸数調査を依頼、400 冊の防災マップを配布する事が出来ました。

自主防災組織認可 ⇔ 平成 18 年 9 月

防災マップ完成 ⇔ 平成 21 年 3 月

防潮堤完成 ⇔ 平成 22 年 10 月

(第 46 号へつづく)



### [編集後記]

今月は、神戸市長田区で株式会社兵庫商会を経営するかたわら、ボランティア活動として「古民家の再生」、洪水被害にあった農地を開墾した「ふれあい農園」に情熱を燃やしている田中保三様に原稿をいただきました。

また、地域だよりは坂出市王越町において地域おこしに活躍している木沢協議会の北山定男様にお願いいたしました。両筆者の先生にお礼を申し上げます。